キエーロの使い方

特徴

（１）土の中にもともといる微生物が生ごみを分解するので、土が増えることはない。

（２）特別な菌等を購入する必要がなく、維持費がかからない。

（３）虫や臭いが気にならない。

（４）汁もの、腐ったもの、カビの生えたものでも投入が可能。

（５）生ごみの水切りが不要

（６）自然の力だけで処理するので、環境にやさしい。

（７）生ごみを処理した土は、堆肥にも使える。

（堆肥として使用した場合は、土の補充が必要です。）

（８）夏場なら３～４日、冬場なら１０日から２週間ほどで分解されて、生ごみが消える。

○使い方

（１）生ごみをためる

・ふたの付いたバケツや、ステンレス容器に生ごみを 2～３日分ためる。※夏場は腐敗が早いため、ためすぎないように注意。

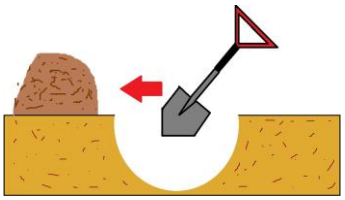
※ふたのない容器は虫がわく原因になります。

（２）キエーロに穴を掘る

小さめの剣先スコップが便利

ベランダタイプは移植ゴテでもよい

・埋めた時に生ごみが、頭を出さない深さ２０～３０センチが目安。



掘った土は埋め戻すのに必要なため、盛っておく

（３）生ごみを穴に投入する。

・１回に入れる生ごみの量は５００グラム（ごはんどんぶり２杯分程度）が目安。

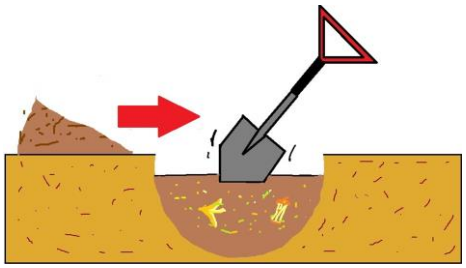
（４）生ごみと土を切るようによく混ぜ合わせる。

・混ぜることで、生ごみを細かく砕き分解しやすくなる。

・水分が足りない場合は、水を投入する。土と砕いた生ごみが混ざりやすくなる程度。

〇水が少ない・・・微生物が活動できず、分解が進まない。

〇水が多すぎる・・生ごみが腐って匂う。虫の発生の原因になる。

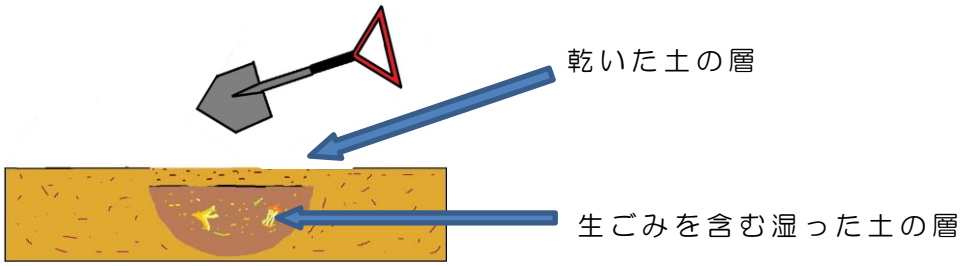


生ごみと盛っていた土を、ザクザクと砕きながら、混ぜ込む。水分が足りない場合は、水を適量投入する。

（５）表面に乾いた土をかぶせて終了

・（４）でよけておいた乾いた土をかぶせる。

・生ごみが頭を出さないように、しっかりかぶせると、虫もわかないし、においも気にならない。

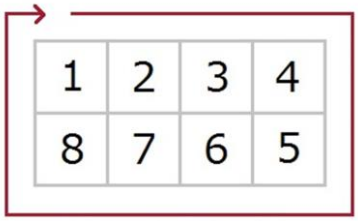


（６）繰り返し実行

・（１）～（5）の作業を 2～3 日おきに繰り返し実行

・次に埋める場所に目印をしましょう。

・埋める場所は 6～８か所が目安



1	2	3	4
8	7	6	5

★ポイント★

〇夏場は分解が早く、冬場は分解が遅いため、一巡する期間を時期によって変えましょう！！

〇生ごみが、灰色の塊になったら分解が進んでいる証拠です。

（７）日当たり、風通しのよいところに設置しましょう。

土の表面が乾いていることで、虫やにおいの発生が抑えられます。

設置する際には、日当たりと風通しが確保できる場所を選びましょう。

庭置きタイプ

ベランダタイプ

（8）投入可能な生ごみの種類

〇入れてよいもの・・・野菜、果物、魚、肉類、カレー、シチュー、麺類、スープ、味噌汁、ヨーグルト、マヨネーズなど、ほとんど何でも投入可能

（時間がかかるもの）

野菜の芯、ミカンの皮、魚の大きな骨

〇消えにくいもの・・・たけのこの皮、たまねぎの外側の皮、とうもろこしの芯。

〇どうしても消えないもの・・・貝殻、鶏肉等の骨、卵の殻等

卵の殻は乾燥し、細かく砕かれるので、気にならなければ、投入可能。

鶏肉の骨は、長期間（半年から１年）で、砕けて細かくなり、消えるので、気にならなければ投入可能。